

1. 育児・介護休業法の改正がありました

2017年1月1日より新しい育児・介護休業法が施行されました。主な変更は以下の通りです。

1. 介護休業: 現行1回の取得
改正: 3回まで分割取得することができる(対象家族1人につき、通算93日まで)
2. 介護休暇・子の看護休暇:
現行: 1日単位での取得
改正: 半日単位での取得
(本学では法改正前より、必要に応じて1日、1時間又は1分単位での取得を可能としてきました)
3. 介護のための短時間勤務等が介護休業とは別に利用できるようになりました。
4. 介護休業給付金の支給額「支給率」や「賃金日額の上限額」の変更
現行: 休業開始時の賃金の40%
改正: 休業開始時の賃金の67%(2016年8月1日以降に開始する介護休業から適用)

詳しくは厚生労働省HPご参照下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000132033.pdf>
(介護・育児休業法改正)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11600000-Shokugyouanteikyoku/0000127885.pdf>
(介護休業給付金についてはこちら)

2. 育児・介護・看護支援補助員制度 後期募集のお知らせ

本学の教職員の、出産、育児、又は介護、看護と職務の両立を支援するために、支援補助員を配置する制度を設けています。

前期(6月～9月)、後期(10月～3月)に分かれ、後期の募集開始は7月19日、締切は8月31日を予定しています。詳しくは男女共同参画推進本部HPをご覧ください。

3. 2017年度男女共同参画推進本部の活動報告と予定

日程	タイトル
5月17日	育児・介護・看護支援補助員制度前期募集開始
7月3日～7日	TGU RAINBOW WEEK 「東京学芸大学で主にLGBTについて考える1週間」
7月5日	第1回教職員交流会 出口学長を囲んで「本学における両立支援のこれまでとこれから」 @教職員ラウンジ
7月19日	「育児・介護・看護支援補助員制度」後期募集開始
7月22日	オープンキャンパス特別企画 テーマ「多様な人びとが学べる環境づくり ダイバーシティにむけて」
8月22日	附属学校初任者研修「本学における男女共同参画の取組み」
10月～2018年3月	フロンティア科目H授業 (オムニバス形式:ジェンダー、セクシャリティ、ダイバーシティ等に関わる講義)
11月3日	男女共同参画フォーラム 「隠れていないジェンダーバイアス -男性学と性教育からダイバーシティへ-
2018年2月頃	第2回教職員交流会

4. ベビーシッター割引制度のお知らせ

教職員(非常勤含む)の育児と就労の両立を支援するために「ベビーシッター派遣事業割引券」(以下「割引券」という。)を発行します。

この割引券を使用してベビーシッターサービスを利用すると、1日の利用料金(1日につき2,200円以上のサービスに限る。)から2,200円の割引が受けられます。

子育て中の教職員の方はどうぞご活用ください。詳しくは男女共同参画推進本部HPをご覧ください。

5. “東京学芸大学レインボーウィーク” 開催報告

7月3日(月)～8日(土)に東京学芸大学キャンパスでセクシュアル・マイノリティについて考えるレインボーウィークを開催しました。

台風上陸などの悪天候にも関わらず、学生、現職教員など200名を超える参加数となりました。

当事者や家族との交流や、本学の学生が勧める書籍や漫画、映画の案内展示、映像を見ながらLGBTQIについて語る会、ブックフェアなどを通じて、セクシュアル・マイノリティについて学び、一緒に考える貴重な機会となりました。



東京学芸大学
レインボーウィークのチラシ

6. オープンキャンパスのお知らせ 「多様な人びとが学べる環境づくりに向けて」

男女共同参画推進本部と学生相談室とが合同で上記タイトルで特別企画を行います。多様性を保障し、人権を尊重し、差別のない学習・就業環境を整えるために行っている本学の取り組みを、来場する高校生やその保護者に向けて紹介します。会場には男女共同参画推進本部及び学生相談室の取り組みに関する展示を行い、ダイバーシティに向けた取り組みの説明と、セクシュアル・マイノリティに関するミニ講座を行います。様々な理由で大学生活に不安を感じている本学受験希望者に、本学のサポート状況について伝え、その不安を和らげられればと考えています。

日時: 2017年7月22日(土) 10:30～11:50 14:00～15:20
場所: S102

7. 2017年度 第1回教職員交流会—2017年7月5日開催—

2017年7月5日(水)12:00~12:50に本年度第1回教職員交流会を開催しました。今回は、出口学長を囲んで「本学における両立支援のこれまでとこれから」をテーマに、14名の方にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

はじめに、出口学長からテーマについてのお話の後、参加者から「支援補助員制度」や「病後児保育利用補助制度」、「LGBTQ」などについての意見や質問があり、出口学長は丁寧に経験談を交えて、お考えを話されました。

昼休みを利用した短時間の交流会で、時間を過ぎても話は尽きない様子でしたが、普段はなかなか直接お話を伺うことができない出口学長を囲んで、とても和やかで有意義な会となりました。



8. 附属学校初任者研修案内

平成29年8月22日(火)から24日(木)も3日間、大学で、附属学校教員向けに初任者研修を実施します。男女共同参画推進本部では、22日(火)10:40-12:10に、「本学における男女共同参画の取り組み」をテーマに講義を担当します。本学では、2006年に男女共同参画推進本部を発足させ、大学と附属学校の全教員を対象とした活動から、学生を対象とした様々な取り組みへと範囲が拡大しています。

昨年度からは女性活躍推進の行動計画を実施し、本学の男女共同参画を推進し、豊かなワークライフバランスの実現を目指しています。これまでの様々な取り組みを紹介しつつ、ダイバーシティの観点から、今後推進していく必要がある事柄について、一緒に考えようと思います。

9. 「学芸フロンティア科目Hを担当して」

男女共同参画推進本部では、2009年度の秋学期から学芸フロンティア科目Hを開講している。オムニバス形式の授業で、当初は「男女共同参画社会」をキーワードに本部員がテーマを持ち寄って始めた授業だったが、2012年度以降、「ジェンダー」と「セクシュアリティ」を2本柱に、ダイバーシティ(多様性)や人権を考える内容になっている。

学外者を含め、2016年度に取り上げたテーマは、前半はジェンダーと教育・労働・子育て・スポーツ・文化人類学や映画分析、女性の貧困問題など。後半は、障がい者の人権や、性教育、デートDV、そしてセクシュアル・マイノリティなどである。特に、JSTの事業で3年間研究員をしておられた成定洋子氏を中心に、セクシュアル・マイノリティの問題を取り上げ、毎年3回以上のコマ数を充てるようになったことは、時宜に合った選択だったと思う。

私自身は、コーディネーターとして2010年度から取りまとめ役を拝命しているが、平均して40人近い受講生が、毎回、水準の高い講義をきき、グループディスカッションなどを通して理解を深めていく経験は得難いものだと感じる。民主主義の破壊を日々実感する昨今、深部から人権意識を養い、豊かな多様性に触れる機会を提供することは、柔軟で強靱な民主社会を創建するうえで欠かせない布石になるだろう。

沙羅双樹の花の色、…ただ春の夜の夢のごとし！

及川英二郎(人文科学講座・本部員)

10. インタビュー「女性管理職について ～ワークライフバランス～」

この度、男女共同参画推進本部では、附属竹早中学校初の女性校長として三年目を迎えられた黒石陽子先生（人文社会科学系日本語学・日本文学分野）に、女性管理職としてのやりがい、ワークライフバランス等のお話を伺いました。

—女性管理職という立場で、先生がやりがいを感じられることは何でしょうか。

竹早中学校では、卒業式の際、校長が160人全員に一人一人に卒業証書を手渡します。着任一年目、子どもたちの大事な瞬間に立ち会える幸せに本当に感動しました。校長という立場だからこそ味わえる喜びだと思います。学校現場においては、先生方が自身の能力を気持ち良く発揮され、伸び伸びと活動できることをきちんと保証していく事が、管理職として大切な仕事だと感じています。それがやりがいにつながっているのだと思います。こうして素晴らしい先生方と一緒にいますし、女性管理職であることを特に意識することはありませんでした。

—その一方、先生が大変に思われることはありませんでしょうか。

大学の中での管理職と、校長としての管理職とは、形の異なった責任の重さがあるかと思えます。校長というものは「子どもの命を預かる」という立場にあり、常に「子ども第一」で一つ一つを慎重に考えていかないといけませんし、判断的的確さも求められます。その責任の重さを感じながら務めています。



—ワークライフバランスとして何か意識されていることはありますか。

研究活動とのバランスについては、比重は校長職にあり、任期中はある程度バランスを整えざるを得ません。一年目は葛藤もありましたが、現在は優先順位の判断が容易につくようになってきました。また、生活とのバランスも仕事重視にならざるを得ない時もあります。やはり子どもの命をお預かりしていますので、子どものことで急遽動かなければいけないことを覚悟しています。

—最後に、皆様にメッセージをいただけますでしょうか。

管理職になることで、視野が広がり、物事の見え方の角度が変わります。それにより直接的ではないにせよ、研究を構築する新たな視点が加わります。大変さのみではなく、経験することによって獲得できる視点が自身の財産になるのではないのでしょうか。

最後に校長として、是非附属学校により興味を持っていただきましたら幸いです。大学との相互理解・協力の改善へとつながることを願ってやみません。

各位	平成29年6月 東京学芸大学竹早地区附属中学校 副校長・小中学校長 黒石 陽子 校長 教行
平成29年度 公開研究会のご案内 (第1次総会)	
新緑の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本校では、幼幼中連携研究に取り組みを深め、下記の研究本部で平成29年度の公開研究会を後述する運びとなりました。つきましては、ご多忙を察しと存じますがご参加いただき、ご指導、ご意見を賜りたくここにご案内申し上げます。	
研究主題	学びを深める場をつくる ～子どもの姿と教師の平立てから探る～
期 日	平成29年11月18日(土) 8:30～16:30
会 場	東京学芸大学竹早地区附属中学校 〒112-0002 東京都文京区小石川4-2-1 Tel. 03-3816-8943 (幼稚園・小学校) 03-3816-8603 (中学校) Fax. 03-3816-8605
内 容	全体提案、公開発表、活動、授業、協議会、講演会
研究焦点	本地区の連携研究(助)のテーマは「学びを深める場をつくる」です。本テーマのもと、子どもが学びを深める場を教師がいかにしてつくるのかを追究していきます。1年次にあたる今年度は、(1)「探究・探究」授業の中に見られる子どもの姿を主題に「学びを深める場」とは何かを提案し、実践を行っています。2年度の研究に基づいた実践を本研究会で公開させていただきます。
全体講師	多田孝志先生 目白大学名誉教授・金沢学芸大学教授

公開研究会のご案内



東京学芸大学 男女共同参画推進本部・支援室

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1(合同棟2階) TEL: 042-329-7894

E-mail: shien1@u-gakugei.ac.jp URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/>